

空き家若者学童保育

新川チーム

葛西亮介 (Kasai Ryosuke) ・ 田伐萌 (Tagiri Moe) ・ 谷剛志 (Tani Tsuyoshi) ・

西村満理奈 (Nishimura Marina) ・ 大塚葵 (Otsuka Aoi)

(同志社大学政策学部政策学科)

キーワード：子育てしやすい地域づくり、学童保育、空き家

1. はじめに

私達はゼミで地域活性化について学んでいる。そのゼミでは、京都にある大学近くのまちの方にも様々なイベントを行っている。特に小学生と触れあう機会が多く、今回のテーマを考えたとき子供たちが安全で楽しい暮らしができる地域作りをしたいと思った。子供が安全かつ健康に育つ地域作りは、すなわちその親である男女にとってもよりよいもので、特に子育て負担が大きい女性にとって働きやすい環境作りに繋がると考えられる。では、具体的にどのように地域の人の子育てに関わるのか。私たちは地域で行う学童保育を提案する。現在、小学生の放課後に様々な課題がある。次にその現状について詳しく述べていきたいと思う。

2. 学童保育の現状

日本全体を見た時、女性就業率は女性活躍推進法などにより少しずつ上昇しつつあるが、依然として男性との格差は大きい。そして、関西の女性就業率に目を向けると、他の地方より低い水準の府県が多い。平成 27 年のデータでは奈良県が最下位で、兵庫県、大阪府もそれに続いている。そこで年齢別女性就業率を見ると、日本はヨーロッパ諸国などに比べ、出産・育児期に大きく低下するM字型雇用となっている。さらに関西はこの傾向が日本の中でも顕著である。なぜM字型雇用になるのか、その原因は働く女性に対しての子育て支援が不十分であり、出産や育児と仕事を両立で

きず、仕事から離れてしまうという背景がある。女性が安心して子育て、仕事を両立できる社会にするには学童保育が足りないといった現状の問題を解決する必要がある。学童保育は現在不足しており、待機児童がいる。そして、小1の壁の問題もある。小1の壁とは共働きの家庭が子供を小学校に上げる際に直面する問題である。保育園では子供を夜遅くまで預けることが可能だが、学童保育は夕方までと預かり時間が短い。そのため今まで保育園に子供を預けてきた女性は働き方を変えざるを得なくなる。入社時間や退社時間を変えたり、場合によっては仕事を辞めなければならない状態に追い込まれたりすることもある。学童保育は子育て中の働く女性にとって、有り難いものだが小1の壁や定員で入れない場合があるなど問題が沢山あるという状態だ。M字型雇用を改善し、女性にとってよりよい社会にすることが求められている。

3. 京都市の空き家問題

京都市にはもう一つの課題がある。それは、空き家が増加していることだ。総務省が行った平成 25 年住宅・土地統計調査によると、空き家は、全国で約 820 万戸であり空き家率は 13.5%となっている。京都府は、空き家数 17 万戸、空き家率は 13.1%となっており全国平均とほぼ等しい。これに対して、京都市の空き家は 11 万戸、空き家率は 14.0%となっており、全国および京都府の空き家率を上回っている。本

市では、昭和 48 年頃から住宅総数が世帯総数を上回り、それに伴い、空き家率もほぼ右肩上がり増加し続けている。京都市の空き家増加の問題には、一つ特徴がある。それは、「その他の空き家」に分類される空き家が、他の政令指定都市に比べ多いことだ。「その他の空き家」とは、人が住んでいない住宅で長期にわたって不在の住宅やたてかえなどのために取り壊すことになっている住宅などのことである。「その他の住宅」の空き家すべてが「放置的空き家」ではないが少なくとも第三者がすぐに入居できない空き家であることには違いなく、中には手入れされず放置されたままのものもある。このような空き家は、防災性の低下や衛生の悪化、まちの景観悪化など様々な問題を引き起こす原因となる可能性がある。

4. 政策提案

私たちは空き家若者学童保育という政策案を提案する。これは放課後に子供の預け場所がないと困っている親のために地域の人たちで面倒を見てあげるといったものである。この提案の詳しい仕組みは、例えば定年後のお年寄りなどの地域住民と地元の大学生が共同でNPO団体を設立し、子供のお世話が出来る環境を整え、その後に学区などを問わず放課後の預け先のない子供たちの面倒を親が迎えに来る時間まで地域の方と大学生とともに過ごすというものだ。また、この活動を長く続けるための人の流れについては、大学生は4年経ってしまうと就職してしまう人が大多数を占めるため、大学にボランティアサークルとして人を集め永続的に新しい学生を迎え入れることにより人の流れを作る。

5. 期待される効果

私たちが考える大学生と地域の方が共同して運営する学童保育には、一般的な学童保育とは異なる

様々な特徴がある。第一に、大学生と地域の方という幅広い年齢層が子供たちの成長に関わることで、子供たちは元気に体を動かすことも昔ながらの遊びを学ぶこともでき、より刺激的な環境で放課後を過ごすことができる。第二に、大学生は比較的時間の融通が利くので、子供を夜遅くまで預けることができる。一般的な学童保育は 17 時までとされていることが多く、親は就業時間や就業形態の変更もしくは退職することを余儀なくされている問題がある。親のニーズに合わせて柔軟に対応できることは大きな特徴である。そして最後に、この地域若者学童保育を行うことで期待される効果を考える。最も大きな効果だと考えられるのは、この提案の目的の一つである子育てしやすい地域作りである。子供から若者や子育て世代、高齢者までの幅広い世代間交流を生み、地域活性化につながると考えられる。地域が活性化すると地域内でのコミュニケーションが増え、皆が助け合うことができる。子育てしやすい地域作りは、女性に偏る子育ての負担を軽減することができ、女性がより活躍できる社会へとつながることになるだろう。

参考文献

- 内閣府男女共同参画局 就業率の推移
http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h29/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-00-01.html
- 内閣府男女共同参画局 都道府県別 女性の就業率(15~64歳)の推移
http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h29/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-00-03.html
- 内閣府男女共同参画局 主要国における年齢階級別労働力率(男女別及び男女計)
http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h26/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-00-13.html
- 関西女性活躍推進フォーラム企画委員会
関西における女性の年齢階級別就業率比較(2012年-2017年)
[http://www.kouiki-kansai.jp/material/files/group/3/20180703\(03_shiryuul\).pdf](http://www.kouiki-kansai.jp/material/files/group/3/20180703(03_shiryuul).pdf)
- 総務省統計局 平成 25 年住宅土地統計調査
http://www.stat.go.jp/data/jyutaku/2013/10_1.html